

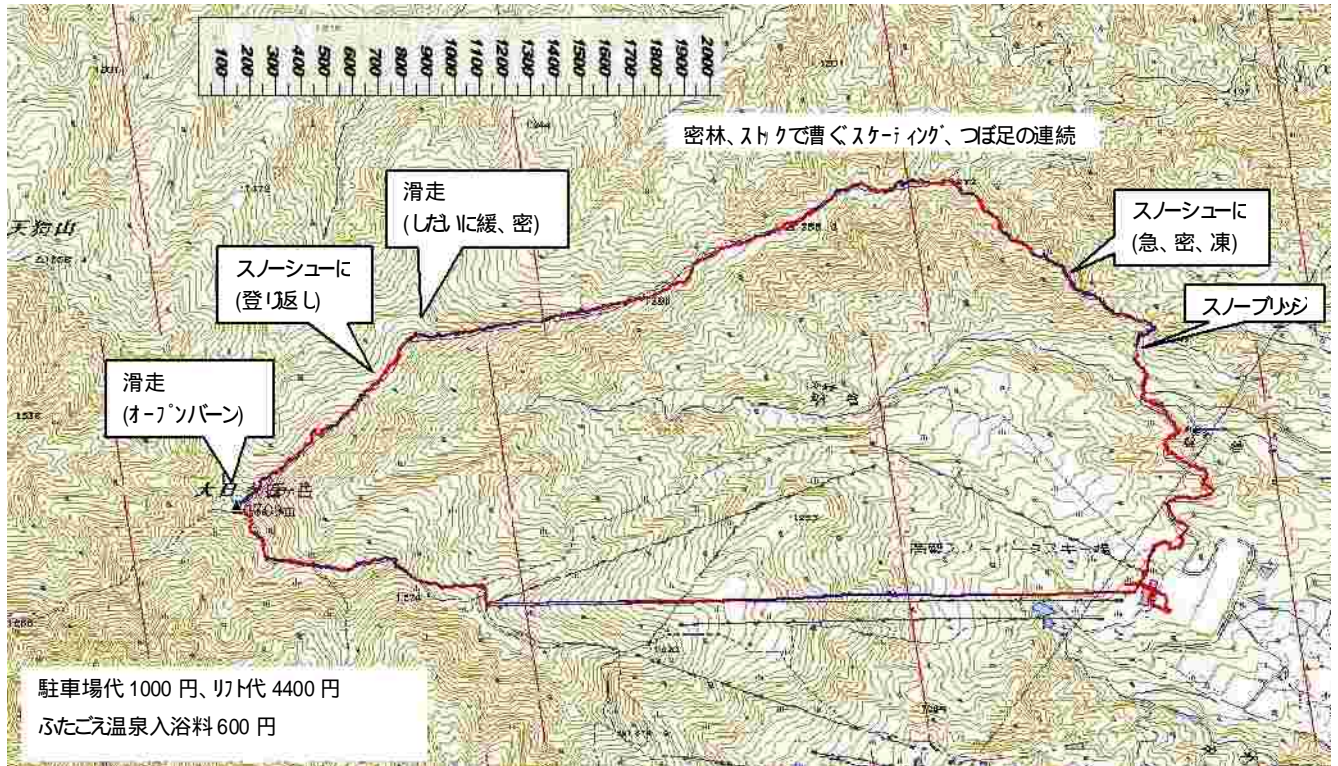
# 山行報告書

作成 2009年12月23日

愛知岳連 岡崎山岳会

山名[山域]	大日ヶ岳山スキー	目的[方法]	山スキー ボード
期間	2013年1月6日	形態	日帰り往復山スキー
参加人数	4人(スキー3人、ボード1人)		
行動記録：1/6(日) 曇 岡崎市民病院PKG(5:00)=0:10=岡崎IC(5:10)=1:00=美濃関JCT(6:10)=0:40=ひるがのSAスマート(6:50,7:10)=0:20=高鷲スノパークPKG(7:30,8:00)+0:30+ゴンドラ頂上駅(8:30,8:40)--1:15--大日岳頂上(9:45,10:05滑走)--2:00--ピーク1273m分岐(12:05)--1:25--ピーク1049m(13:30,13:35)--0:10--吠谷の橋を渡り林道へ(13:45)--1:00--高鷲スノパークPKG(14:45,16:10)=0:20=ふたごえ温泉(15:30,16:30)=0:10=高鷲IC(16:40)=2:10=岡崎IC(18:50)=0:10=岡崎市民病院PKG(19:00)			

## 概念図



## 日誌(ボーダー)：

曇りの予報だったが、晴れておりひるがのSAから山の全容が見え、滑走する尾根を探す。高鷲インフォメーションで計画書を提出、リフト券購入しゴンドラ頂上へ。山頂カフェ[ポポロ]の建物西側から出発。尾根をトラバース気味に進み尾根にとどく。頂上までは一本道で踏跡もあり締め固められておりスノーシューでも歩きやすい。他の入山者はスキーヤー20人、ボーダー4人程度で、ほとんどが頂上から北側へ滑走し、ハイクで頂上へ戻り吠谷の南側を滑走し、ゲレンデ中腹へハイク戻るとのことだった。我々は頂上から蛭ヶ野へ向かって尾根を滑るも一瞬で平坦になり、登り返しを避けトラバースしながら滑るも、結局登り返す。ピーク1580mから再び滑走、やや密林の緩斜面が長く続き気持ちがいも1273mの分岐を4人でGPSで確認しながら目指す。しかし密林になりストックで漕いだり、片足ははずしスケータイングの繰り返し。ピーク1273mの分岐手前あたりから、やや急斜面と緩い登り返しの繰り返しで、木の葉落しや直滑降で滑ったりつぼ足で歩いたりを繰り返したが、密林の急斜面で凍っている部分が出てきたので以降はスノーシューで下った。ピーク1049mから細い樹木を掻き分けて針葉樹林帯の沢地形をトラバース気味に下った、(細い樹木さえ抜ければボードでも滑れそう)。沢の出口でスノーブリッジを慎重に渡り吠谷の橋に到着。林道の緩い登り返しを進み高鷲スノパークの車庫脇からゲレンデ下部へ合流、下山した。

## 感想(ボーダー)：

スキーヤー達は山スキーの醍醐味を楽しんでいたが、地図から予想はしていたがボードの私はあまり滑走できずなかなか苦行だった。緩斜面、登り返し、密林の3点が揃うと、ショートターンの技術と素早い装着能力が必要だ。今回は時間にゆとりのある山行だったのでよかったが、山スキーに遅れをとる迷惑をかけてしまう。次回は頂上より裏山を滑走し、ハイクで頂上へ戻り吠谷の南側を滑走し、ゲレンデ中腹に戻る計画を実行したい。